



まちの駅ニュース

人と人の出会いと交流をサポートする
まちの情報発信基地

1. 第23回まちの駅全国大会はオンライン開催

今年の「第23回まちの駅全国大会」は、8月に新潟県見附市で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの収束が進まない状況を鑑み、開催を中止せざるを得なくなりました。とは言え、2年続けて全国大会が行われないことは避けたいということから、オンラインで開催することとしました。開催日は11月9日(火)です。

プログラムは「まちの駅ネットワークみつけ」が計画・準備してきたものを踏襲して、①鯉江康正氏(長岡大学副学長)による基調講演/鯉江ゼミナール学生によるまちの駅研究発表、②まちの駅ネットワークみつけのPR動画を放映します。当日のトラブル回避を考慮して事前に動画を作成しておくと共に、当日参加できない方のために事後にYouTubeで視聴できるようにします。また、各まちの駅からの活動報告や小グループでの自由懇談タイムを取り入れる予定です。交流会もオンラインで開催したいと思います。お楽しみプログラムでは見附に関わるクイズを出し、正解者には抽選でプレゼントを贈呈。

なお、「第24回まちの駅全国大会」は鹿児島で開催します。日程は令和4年11月11日(金)、12日(土)、13日(日)で、現地では準備が始まるところです。

そこで、「第23回まちの駅全国大会」とのつなぎを考えたいという希望があり、7月28日、見附メンバーと鹿児島メンバーと本部事務局とでオンライン会議をしました。鹿児島メンバーから、オンライン交流会用に見附のおつまみセットが欲しいという希望が出されたので、限定販売を検討してもらうこととしました。詳細は追ってご案内しますので、どうぞ楽しみに。



2. 第4回姉妹まちの駅オンライン交流会(あらかわ区まちの駅の日)

第4回目となる「姉妹まちの駅オンライン交流会」は、4月16日に開催されました。今回のホスト役は、あらかわ区まちの駅ネットワーク。「もんじゃ焼」といえば、戦後の食糧難の下町で広がった駄菓子屋発のコミュニケーション・フード。月島の「もんじゃストリート」が有名ですが、荒川区内にも老舗の「もんじゃ屋」が多数あります。



あらかわメンバーにご用意いただいたのは、「都電の街地ビール」「浅利つくだに」「刺身こんにゃく」「遊園マドレーヌ」「都電もなか」「もんじゃ焼き材料セット」「ベビースターラーメン」。コロナ禍の中でしたので、人数制限で三密回避をして、各地域のメンバーもモニター越しに作り方を教わりながら、荒川もんじゃを自ら焼いていただきました。なお、この日あらかわメンバーが集ったのは「矢鱈面白ラボ」(矢鱈面白駅)ですが、寺本建雄駅長は、ミュージカル劇団「ふるさときゃらばん」で作曲・構成・音楽・脚本を担当された方で、今も音楽に関わる多彩な活動をされています。

3. まちの駅運営幹事会をZoomで開催しました

5月27日、全国まちの駅連絡協議会の運営幹事会をZoomで行いました。久住時男会長の挨拶で始まり、令和2年度の活動報告・決算報告、令和3年度活動計画・収支計画が承認されました。コロナ禍の収束が一向に見えないため、「まちの駅全国大会 in みつけ」は今年も見合わせることなり、オンラインで実施することが確認されました。



まちづくり計画研究所の今泉重敏氏より、福岡県粕屋町で取り組まれている「一駅一美」活動を発展させて、「一駅一芸」運動を展開してはどうかという提案がありました。久住会長からは、まちの駅のオンライン化が進めば、多様なまちの駅の全国ネットワークを生かして、各地のまちづくり活動や商品・特産品、その他の様々な情報を事務局に集めることで「プラットフォーム機能」の強化が期待できるという意見がありました。まずは、各地のまちの駅メンバーで気軽な情報交換をするZoom交流会を実施し、オンライン化を進めたいと思います。

特集：“世界マヌケ反乱の手引書 ふざけた場所の作り方”に学ぼう

東京高円寺でリサイクルショップを営む松本哉さんの著書『世界マヌケ反乱の手引書 ふざけた場所の作り方』（筑摩書房）はとてもユニークな実践記だが、脳みそのコリをほぐすにはうってつけの本かもしれない。場づくりの点から、まちの駅にとっても参考になりそうな部分を抜粋・簡約して紹介する。

はじめに

このしょうもない世の中に対抗して、世界中で大バカな奴らがとんでもないスペースを大量に作り始めている。メチャクチャ楽しそうな場所、やたらカッコいいスペース、フリーダム感が全開の場所、バカ過ぎる場所、次から次へと謎の人物が現れる場所……。

その一方で、どんどん街が整然としてきて、ムダなスペースは減り、人のつながりも徐々に希薄になって、その割に謎のルールばかりが増え、なんだか窮屈になっている。

こうなったら、しびれを切らした世界中のマヌケたちが勝手な場所を作って勝手な生活を始めるしかない。この本は、そんなマヌケ反乱の拠点のようなスペースをどうやって作って維持していくのかの作戦を練っている。



何をするにも仲間が大事である。松本さんは新たな仲間の作り方として、よく駅前などで露店を開いたり、ゲリラ飲み会をしてきた。その他いろいろな仲間づくりの仕掛けが紹介されているので、その中からの抜粋。

ピラぶちまけ作戦

まずは、異常にテンションの高いピラを印刷する。この時重要なのは、自分の携帯番号をでかい字で書いておくこと。ピラができたならば撒いてみる。おススメは駅周辺に止めてある自転車のカゴ。あとは自販機の取り出し口や公衆便所の個室など、人目に付きそうな場所。目撃した時のインパクトが強い程印象に残るので、とんでもないところに撒いてみる。ピラを撒き終わったら缶ビールでも飲んでみると、電話や連絡が10~15件ぐらいくる。「今駅前で飲んでいるから飲みましょう」と引き寄せると、謎の路上飲み会になる。参加者はその街の人なので、知り合いが通ると声を掛けて勝手に仲間が増える。あるいは電話で友達を呼び出して盛り上がっていく。ネットや雑誌でも街の情報は入るが、地元民こそ最大の情報源。超重要な情報が一晩にして山のように舞い込んでくる。次にその街で遊びたかったら、その時に知り合った人に連絡して連れて行ってもらえばいい。もちろん、いけ好かない連中ばかりの時や人が集まらないこともあるが、こういうものは数をこなすことが重要なので、試してもらいたい。

飲み屋作戦

もっと楽な方法は、ただ街をウロウロして飲み歩き、自分のセンスに合っていそうなお店に立ち寄ってみる。長野県のあるリサイクルショップに寄ってみたところ、案の定変わった親父がやっていた。で、いきなり「まあ、ビールでも一杯」と飲み始めて仲良くなった。同業者として商品の交換などをするようになり、そのうち仲間が泊まり込みで修業に行ったり、裏山で音楽イベントを開催したりした。

なんだか妙なオーラが出ている店には片っ端から入ってみよう。何かがあるかもしれない。

大騒ぎをすることで予期せぬ人との遭遇があったり、路上ゲリラが面白くなるという。大晦日の夜、終日運転の山手線の車中で、松本さんは仲間とともにゲリラ大宴会を決行した。以下、大騒ぎぶりが目に浮かぶようだ。

山手線大パニック大宴会作戦

すでに午前1時近くになっていたが、ヒマ人たちと山手線の先頭車両に乗り込み、真ん中にちゃぶ台を設置し、とりあえず一升瓶をおいておもむろに飲み始めてみる。そうすると同じ車両の中にいた人から「いいですね〜」と声を掛けられ、すかさず「一杯飲んでいきましょうよ!」と呼び掛けていく。さらに用意してきた紙コップを車内の乗客に配って「いや、あけましておめでとうございます」などと言って酒をついでいくと、これがまた反応がいい。さすが元日の未明、何をやらかしても「とりあえずめでたい」ってことになる。日本でいちばんマヌケな日だ。

で、あっという間に車両全体が知らない人同士の宴会状態、なんだかすごい光景になってきた。駅に着いてドアが開くと、乗り込んで来た人にすかさずコップを渡し、「いや、どうもどうも」と言って酒を注ぐ。不意打ちほど強いものはないらしく、おじさんたちも「これはこれは」と言って飲みだした。ほとんどの人が初対面な上に、みんな「おめでとうございます」とか口々に言っている。こんな楽しい飲み会はなかったね!

宴もたけなわになってきた頃、JRの方でも気づいたらしく、駅で止まった時「車内点検のため、しばらく停車します」というアナウンスが流れた。「おお、これはついにバシたぞ!よし片付け、片付け!!」。すかさずちゃぶ台をたたみ、一升瓶も隠して、普通に立って乗客のふりをした。すぐに駅員さんが駆け込んできたが、大宴会の跡はない。

駅員も「あれ？ なんでもないね」と帰ろうとするが、その車両だけ異常に酒くさいのと、やたらとコップを持って飲んでいる人がいて、どうも怪しい。かなり怪訝そうにキョロキョロしていた。何食わぬ顔をしてトボケているが、駅員が妙にチラチラ見るので、これはまずいとそ〜っとホームに降りて、猛ダッシュで逃げて、解散！

松本さんは台湾に何度も遊びに行っており、知人友人も多い。その台湾人との付き合い方も参考になりそうだ。

台南・日本大使館 = 究極の場所を発見

2013年頃、台湾の台南に頻繁に遊びに行っていて、飲んでいる時に「いつもお世話になっているから、高円寺に『台湾大使館』を作るよ。みんなが遊びに来た時はいつでも使っているよ」と約束し、帰国後ゲストハウスの一角のプレハブ小屋を台湾大使館に決めた。その写真を台南の人に送ったら大喜びして、お礼に日本大使館を台湾に作る宣言。1カ月後、「台湾に13カ所日本大使館を作ったから、いつでも遊びに来い」という連絡が入った。

それから2年後、ようやく台南の日本大使館に連れて行ってもらった。車を降りて、ジャングルのようなところを歩き、茂みを抜けてちょっと広がっている場所に出たら「よーし着いた」という。建物も何も無い。

その辺に落ちていた丸太を集めて円を描くように並べ、みんなで輪になって座る。そして火を起す。タバコを吸い始め、酒も回ってきた。「ここが日本大使館だ」という。すると誰かがバナナを抱えて持ってくる。太鼓を叩き始める人もいる。人が集まれば、もうそこは立派なスペースなのだ。

聞けば、ちゃんとしたスペースもあるが、知り合いのスペースの一角や友達の店もあるようだ。友人が台湾に行って日本大使館を訪ねてみたところ、いきなりすごく大歓迎されたという。日本大使館は立派に機能している。

勝手にパスポートを作ってみよう…世界万能旅券

世界万能旅券は、個人が個人に発行するパスポートだ。表紙をめくると、日本国パスポートを少し変えて「私の友人である本旅券の所持人を通路故障なく旅行させ、かつ、同人に必要な保護扶助を与えられるよう、関係の諸友人達に要請する」との文言が書いてあり、文言の最後にサインをして渡す。なので、このパスポートが効果を発揮するかどうかは使う相手次第である。大歓迎されるかもしれないし、全く相手にされないかもしれない。逆にそこに書かれている署名次第で、こちらの態度も変わってくる。

送り出す側からの「面倒見てやって」というパスポートに対して、「どうぞ、遊びに来て」というのがピザ。実際のパスポートに押されているピザは「3カ月の観光ならOK」とか「おまえは1年働いてもよし」というもの。そこで我々もピザを発行して、いろいろと受け入れていきたい。

ピザの内容はなんでもいい。例えば店をやっている人だったら「ドリンク一杯無料」や「100円引き」など。個人でも「ごはん一食ごちそうしてあげる」でも「3日泊めてやる」でもいい。すごくお世話になった人に「1週間宿泊無料&5回酒おごる」という豪華ピザを発行したこともある。

自分の世界万能パスポートをパラパラとめくってみたら、ベルリンでビール10杯無料、伊豆で温泉1回、パキスタンでカラオケ3曲、ロシアでスマイル無料…。その時々に出会った友達の顔が思い浮かんできた。



松本さんは場所作りを進めながら、スペース同士や地域同士が繋がることが最も重要だという。知り合いから知り合いへ、場所から場所へという繋がりが巨大なシーンになるからだ。その為に同時多発イベントを仕掛けている。

アジア圏同時多発反戦イベント

2015年の夏、アジア圏同時多発反戦イベントをやることにした。今回は全員（全部の地域）が対等のポジションで文句を言うことにした。なので「戦争反対」をメインテーマに、それぞれ自国の抱える問題を取り交えてアレンジして、何かイベントをやる。そして、各地の掲げたテーマを相互に支持するという形にした。

8月29日に各地で独自の反戦作戦を決行し、その日の夜、みんなで飲みながらネットで会場を繋ぎ、なにをやったかを発表しようということになった。ところが、台湾は音楽イベントのために一週間延ばし、香港も勝手に別に日に決め、さらにはニューヨーク、ドイツ、バリなどからも参加したいという情報が入るなど、混乱と拡大の中、それぞれが面白い反戦イベントを開始した。路上ライブだったり、飲み会だったり、デモを行ったり。日本では「映画を撮影する」という名目で道路使用許可を取得して、路上グリライイベントを行った。映画のワンシーンとして、戦争を象徴するミサイル付きの車をみんなで叩き壊してひっくり返した。そして最後は盛大な国際飲み会会議だ。

まちの駅は、駅という開かれた出入り自由の場であり、駅長やまちの案内人という人のネットワークである。とは言え、まちが「待ち」になっていては、出会いやコミュニケーションの機会は限られてしまう。ときには「突然に」や「勝手に」や「同時に」というのを試してみることが大事だ。バカになって楽しんでいる点も見習いたい。

4. 富士市まちの駅ネットワークからの報告です

コロナ禍で中止の行事が多い中、継続事業から申し上げます。毎年、行政主導で新駅募集から審査、オリエンテーション、認定式までの一連の行事のもと、今年、新たに1駅が加わりました。行政の担当課は、富士山観光課です。昨年度は3駅が退駅しましたので、現在61駅です。

メイン事業の「だるまプロジェクト」は15年目を迎え、「だるま電車走行」、「だるまコンテスト」など、報道関係も合わせて盛り上がっています。毎月行われている小規模の「井戸端会議」も増えつつあります。三つのエリアごとに、毎回3人から10人くらいの参加者で、駅長同士の相互訪問の形で、気楽に行なっています。

新規事業として、自転車の休憩所「サイクルピット」としてまちの駅を活用できないか？という案件が先日の富士市議会で取り上げられました。今、自転車ツーリズムが見直されているだけに、全国のまちの駅でも実行できるのではないのでしょうか？空気入れを用意するだけです。コロナ禍で、大規模・大人数より、小規模・一人の対応が行いやすく、まさにまちの駅に合った健康増進策だと思えます。

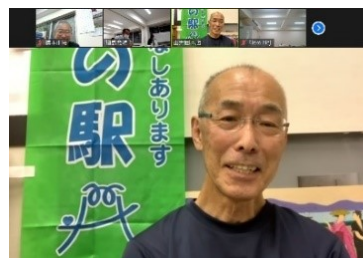


富士市まちの駅ネットワーク 代表 渡辺栄一

5. まちの駅ネットワークふくしまのハイブリッド型駅長会議

まちの駅ネットワークふくしまの駅長会議は、リアルとオンライン（Zoom）のハイブリッド型で行われています。5月27日は本部事務局とネットをつなぎ、7月29日は富士市まちの駅ネットワークの渡辺栄一代表をゲストに開催されました。

前半は参加駅長からの近況報告が行われ、後半は渡辺さんから富士市のまちの駅の概要、コロナ禍での取り組み状況が紹介されました。その後は質疑や情報交換では、まちの駅活動のモチベーションを高める方法やまちの駅運営における行政の役割などが話し合われました。渡辺さんからは「楽しみながら活動すること」と「駅長同士が仲良くなること」が大切だというアドバイスがあり、福島まちの駅メンバーからは「参考になる事例やいいアイデアをいただいた」という感想が出されました。外部のゲストをオンラインで招くハイブリッド型の駅長会議、ぜひともお勧めします。



新規まちの駅のご紹介 (令和3年4月から令和3年7月までの加盟駅)

| 都道府県 | 市町村 | まちの駅名 |
|------|--------|-------------------|
| 福島県 | 福島市 | 生け花の里・花見山ステーション |
| 埼玉県 | 深谷市 | まちの駅くふかや七ツ梅 |
| | 本庄市 | 麦・香る駅 |
| | 本庄市 | ビューティーの駅 |
| 山梨県 | 南アルプス市 | 南アルプス市「まちの駅」くしがた |
| 長野県 | 安曇野市 | まちの駅 安曇野ベース |
| 福井県 | 大野市 | まちの駅 お清水 |
| 奈良県 | 広陵町 | まちの駅広陵 はしお元気村マルシェ |
| 福岡県 | 粕屋町 | 〇〇の駅 |

| 都道府県 | 市町村 | まちの駅名 |
|------|-------|-------------------------|
| 鹿児島県 | 串木野市 | 海鮮まぐろ家の駅 |
| | 薩摩川内市 | 樋脇グラウンド・ゴルフ場の駅 |
| | 薩摩川内市 | 武士の駅 |
| | 阿久根市 | まごころ運転の駅 |
| | 出水市 | 本格芋焼酎の駅 出水酒造 |
| | 出水市 | グルメ・温泉・カラオケ等 アミューズメントの駅 |
| | 出水市 | 日本一住みたいまち出水の不動産を紹介する駅 |
| | 出水市 | いずみのキカイ屋さんの駅 |

編集後記

特集で紹介した松本哉さんはリサイクルショップ「素人の乱5号店」を本業としつつ、「なんとかBAR」という日替わり店長式の飲み屋を作ったり、「マヌケ宿泊所」というゲストハウスを経営し、台湾をはじめ海外からも多くの人が集っていた。だが、コロナ禍の中で「なんとかBAR」は長期休業中、「マヌケ宿泊所」は残念ながら閉店してしまった。松本さんにまちの駅のことを紹介したら、「それだけのネットワークがあり、仲間がいればいろいろなことができそうですね」と言われた。特集をまとめながら、ローカル鉄道でゲリラ飲み会＝「ガタゴト居酒屋」、まちの駅大使館を地域どうして作り合う、パスポートを作っているいろいろなピザを発行して我がまち、我が駅に来てもらう、まちの駅の店先で露店を広げて人だかりを作る…、妄想は尽きないが、マジメなまちの駅だから、たまにはジメをヌケに代えて何か企んでみたいものだ。ではどうするか。松本さんの本にはこう書かれている。「超簡単。開き直った瞬間にマヌケな社会はやってくる」(は)